

EXPO2025 大阪・関西万博の魅力について

2025年、大阪・関西万博が開催されている。前評判はよくなかったものの、開催されると来場者はあつという間に増え、キャパオーバーではないかと思うほどの人が連日押し寄せている。私は、早期券で5月初旬に試しに行って以来、その魅力に取りつかれた。愛知県在住の人に話すと少々驚かれることが多いが、通期パスを購入し、9月末時点で今後の予定も含めて通算 18 日、自分なりの攻略法と節約法を見つけて通い、建築物、外国の文化、日本の技術、たくさんのものに触れてきた。万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。各国のパビリオンが、自国について、そして日本とのつながりを映像・展示・参加型コーナーなどで紹介している。併設のカフェでは珍しい料理を楽しむこともできる。



ミャクミャクが大人気

今回の万博の大きな特徴の一つは、予約から会場の自動販売機まですべてキャッシュレスであることだ。チケットの管理、予約もすべてアプリ等で行う。パビリオンやイベントの予約方法も複雑で最初は習得に時間



大屋根リングを散歩する人たち

う年齢とお見受けする人まで幅広かった。

会場に着くと、まず大屋根リングの想像をはるかに超える大きさと素晴らしさに圧倒された。海が見える一周約2キロの公園のような遊歩道で、パビリオンでの催し、演奏やダンスなどが観られるのもとてもよかった。木造の遊歩道であるリングの上に、エスカレーターとエレベーターで上られるのも斬新に思えた。（裏に続く）

間を要した。予約自体も人気が出ればでるほど困難となり、また、大会の運営方針が日々改善され、変更されることが多く、作戦を練って臨んでも、簡単に覆されてしまうことが悩ましかった。これらを攻略しながら訪れることも、結果として万博の魅力であったのではないと思う。この万博の一番の難点は、疲弊するほど人を受け入れる人の多さであり、もう少し人数制限ができるとういのではと度々思っていた。しかし、主催者としては黒字にする必要があり、また、多くの人の来場を望んでいるため、やむを得ないのであろう。だからこそ、比較的空いている時間にどう訪れるかここでも作戦が必要だった。イベントは、同時に観られないことが悩ましいくらい複数の会場で興味深い内容の催しを開催していた。こ

のような状況ではあるが、訪れる人は、若い人から1970年の大阪万博に訪れたであろ



海に面した会場西の端からは夕日が見える

外国のパビリオンは、長時間待つ入ってみると、中には素朴な作品展示のような所もあったが、それがまた国の違いや特徴でもあり、また、今後もたぶん出会うことがないであろう国、アフリカや中東等の国の人と接することができるのも魅力であった。どこも魅力がいっぱいだったが、フランス館、スイス館、サウジアラビア館、オーストリア館、ドイツ館などが特に印象に残った。オーストリア館では、世界で 16 台というグランドピアノに葛飾北斎の絵が描かれているベーゼンドルファー社の「The Great Wave off Kanagawa」(4994 万円だそう)の自動演奏に合わせて、日本とオーストリアの歴史の紹介の映像を観た。大人気で



オーストリアパビリオン



連日大行列のフランス館は、ルイ・ヴィトンのトランクで部屋中が埋めつくされた圧巻な空間、オーギュスト・ロダンの複数の「手」の彫刻作品、クリスチャンディオールのアートクチュールの展示、また現地から運んできた樹齢1000年以上のオリーブの木も中庭に置かれ、とても見応えがあった。



フランスパビリオン

日本の「いのち」をテーマにしたパビリオンでは、ロボット工学の第一人者石黒浩氏(大阪大学教授)プロデュース「いのちの未来」と、「食」をテーマにした小山薫堂氏プロデュース「EARTH MART」が特に好きだった。「いのちの未来」では、たくさんのアンドロイドが登場する。ド素人の私が見ても、滑らかな動きをするロボット達。たくさんのロボットに囲まれて、将来日本、世界はどう変わっていくのか考えさせられ、とても心に残った。

万博の催しはどれも魅力的だが、期間限定であるため終わってしまう。10/13閉幕なので残り少ないが、日本を背負っていく若者にぜひとも見てもらいたい。若者でない人も、まだ行っていない人にはぜひ一度は足を運んで欲しい。私の心残りといえば、各国のダンスやパレード、国一番の催しを紹介しているナショナルデーイベントをもっと時間があれば観たかったこと、体験イベントも開催されていたがほとんど参加できなかったことである。

楽しかった万博が終わってしまうので、万博をきっかけに何か新しいことを始めたいと思っている。万博予約時の選択をする際に、自分が特に興味のあるものは何であるか考える機会がたびたびあった。この万博では、人の興味によって好みや評価が分かれた。私の場合は、音楽、美術、手工芸、建築(少し)、自然、健康などが特に好きな分野であり、理系の技術系のパビリオンはぼんやりと凄さがわかる程度であった。自分自身を振り返る機会を得ると同時に、大阪ヘルスケアというパビリオンでは25年後の自分を見て、前述の「EARTH MART」というパビリオンでは 25 年後に受け取る和歌山県の梅干しの券をもらった。今まで考えたこともなかった25年後の自分(生きているのかもわからない?)を色々想像しながらこれからの生活について考えてみるのもいいかなと思っている。

(万博についていつまでも語っていたい司書)



トルクメニスタン、バーレーン、チェコ、マルタパビリオン

※写真はすべて自身で撮影したもの